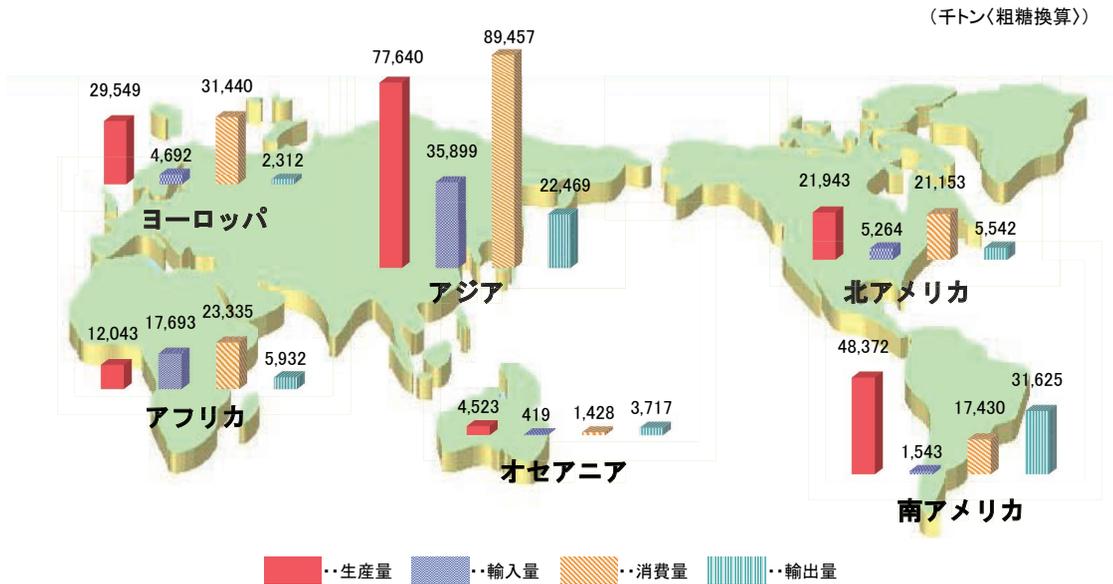


## 砂糖の国際需給

調査情報部 水野 崇、峯岸 啓之

### 1. 世界の砂糖需給（2022年9月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別砂糖需給（2022/23年度予測値）



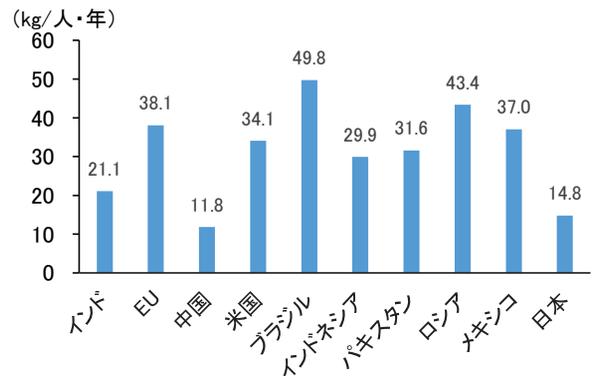
資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, September 2022」  
 注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。  
 注2：ヨーロッパには、ロシアを含む。

LMC International（農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社）による2022年9月時点の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2022/23砂糖年度（10月～翌9月）の世界の砂糖生産量は、1億9407万トン（粗糖換算〈以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算〉、前年度比3.4%増）とやや増加すると見込まれる（表1）。南アメリカでは主産地であるブラジル、アジアではタイ、オセアニアでは豪州の生産量増加の影響により前年度を上回り、その他の地域では前年度を下回る見通しである。

また砂糖消費量は、主要消費国であるインドを筆頭に、EU、中国、インドネシアなどで増加が見込まれるものの、ブラジルで横ばい、米国では減少が見込まれ、全体としては1億8424万トン（同1.3%減）とわずかに減少すると見込まれる。

期末在庫率は、前年度比2.6ポイント増の43.4%と見込まれる。なお、地域別の砂糖需給の予測値は、図1の通りである。

#### （参考）一人当たり砂糖消費量（2022/23年度）



資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, September 2022」  
 注1：年度は各国の砂糖年度。  
 注2：EUには、英国を含む。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン〈粗糖換算〉、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1992/93	43,275	110,780	28,551	109,895	29,700	43,011	39.1
1997/98	53,920	126,205	35,557	120,805	39,806	55,071	45.6
2002/03	60,687	149,947	42,690	140,189	45,359	67,776	48.3
2007/08	62,150	166,772	45,454	158,489	48,802	67,085	42.3
2012/13	53,771	185,867	60,712	173,346	63,294	63,710	36.8
2017/18	68,310	195,571	65,921	180,954	67,989	80,859	44.7
2018/19	80,859	186,541	61,016	182,953	61,604	83,858	45.8
2019/20	83,858	181,354	69,341	182,025	71,846	80,682	44.3
2020/21	80,682	181,935	67,627	185,095	68,149	77,000	41.6
2021/22	77,000	187,706	68,544	186,710	70,290	76,250	40.8
2022/23 (2022年9月予測)	76,250	194,070	65,509	184,244	71,596	79,990	43.4

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, September 2022」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

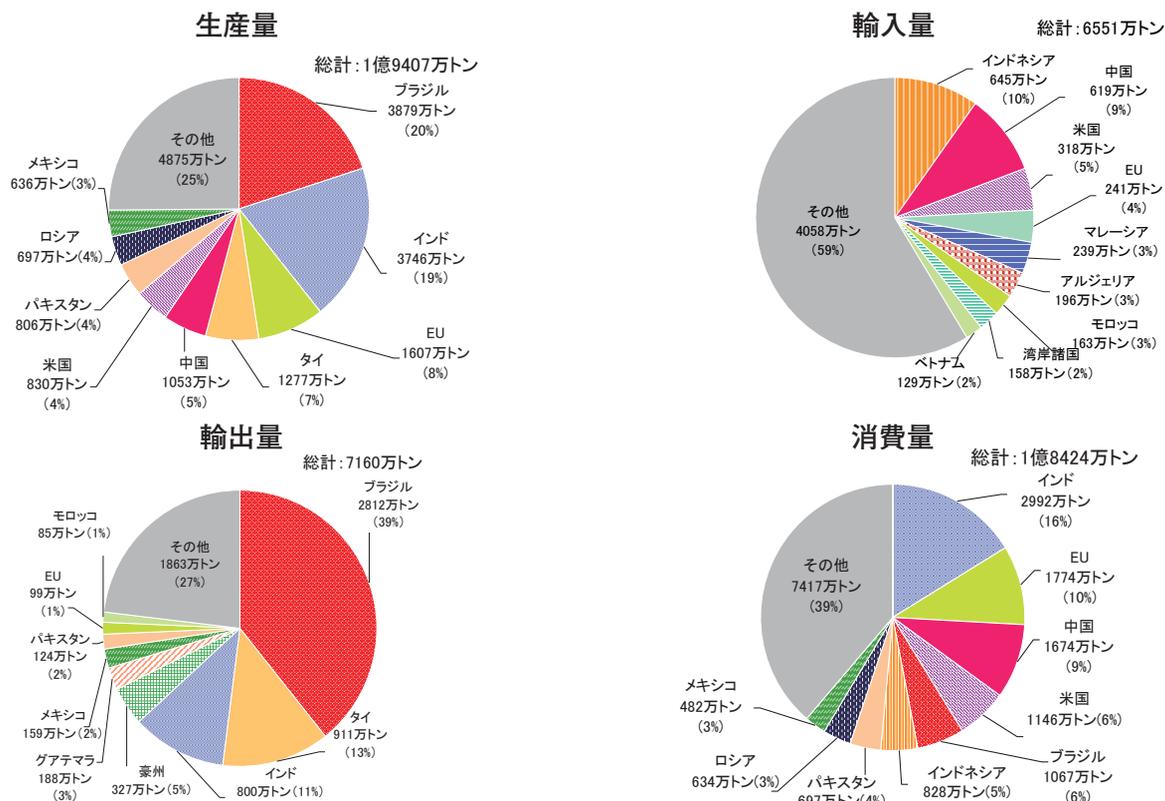
注2：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注3：期末在庫量は（期首在庫量＋生産量＋輸入量－消費量－輸出量）。

注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

## 2. 主要国の砂糖需給（2022年9月時点予測）

図2 主要国の生産量、輸入量、消費量、輸出量（2022/23年度）



資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, September 2022」

注1：年度は、各国の砂糖年度。

注2：各数量においては、その主要国とその他を表示。

注3：「その他」は、総計から主要国の計を差し引いた数値。

注4：端数処理の関係で内訳の合計が総計と一致しないまたは100%にならない場合がある。

注5：EUは、英国を除く27カ国。また、湾岸諸国とは、アラブ首長国連邦、バーレーン、カタール、オマーンの4カ国を指す。

## 【生産量】

ブラジルは、サトウキビの主産地である中南部で降雨によるシーズン初期の収穫作業に遅れが見られたが、その後徐々に回復しており、降雨の恩恵を受け今後の豊作が期待されることから3879万トン（前年度比3.1%増）とやや増加し、インドを抜いて生産量第1位となることが見込まれる（図2）。

インドは、雨季に入り、国内生産量第1位のウッタル・プラデーシュ州で降水量が平年を大きく下回っていることから、3746万トン（同3.0%減）とやや減少し、第2位に後退すると見込まれる。

また、主にてん菜糖を生産するEUにおいては、7月から8月にかけて記録的な熱波や干ばつがてん菜の生育に影響すると予測され、1607万トン（同6.8%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。

## 【輸入量】

インドネシアは、砂糖生産量が前年度をやや下回ると見込まれる中で、主に家庭での砂糖消費の増加に伴い645万トン（前年度比8.1%増）とかなりの程度増加し、輸入量第1位となることが見込まれる。

中国では、2020年に引き続き2021年も国内需要を上回る量の砂糖を輸入したことで、国内在庫の積み増しが想定されることから、619万トン（同7.9%減）とかなりの程度減少し、インドネシアに次いで第2位になると見込まれる。

## 【消費量】

消費量第1位のインドは、人口の増加に伴い、2992万トン（前年度比1.8%増）とわずかに増加し、世界の砂糖消費量の16%を占めると見込まれる。

続くEUは、ウクライナからの600万人の難民流入や砂糖需要の回復を受けて前回予測から上方修正され、1774万トン（同0.6%増）と新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行前と同等の消費が見込まれる。

長らく世界の砂糖需要をけん引してきた中国は、1674万トン（同1.3%増）と微増にとどまり、EUの水準をやや下回ると見込まれる。

## 【輸出量】

輸出量第1位のブラジルは、海上運賃の高騰を受けてインドネシアやアフリカ諸国などでブラジル産の粗糖需要が低下しているものの、インドや豪州などの主要輸出国が輸出量を大きく減らす中で、2812万トン（前年度比3.8%増）とやや増加し、世界の砂糖輸出の4割弱を占めると見込まれる。

タイは、増産を受けて前年度からさらに輸出量を伸ばして911万トン（同19.8%増）と大幅な増加が見込まれ、インドを引き離して第2位になるとみられる。

続くインドは、前年度の輸出量は1120万トンだったものの、今年度の輸出政策がまだ公表されておらず、期首の在庫量や砂糖生産量の予測から、800万トン（同34.6%減）と大幅に減少すると見込まれる。

### 3. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き (8/1 ~ 9/12)  
 ~ 17セント台半ばから18セント台半ばの範囲で推移~

図3 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



2022年8月のニューヨーク粗糖先物相場の推移を見ると (10月限)<sup>がつぎり</sup>、1日は、前週末に発表された中国の製造業景気指数が下落したことから、砂糖需要の低迷が懸念されたものの、リアル高<sup>(注1)</sup>の影響などから1ポンド当たり17.60セント<sup>(注2)</sup>とやや値を上げた。その後回復基調にあったものの4日は、原油価格の下落<sup>(注3)</sup>などにより、同17.55セントまで値を下げた。5日は、欧州での熱波や干ばつその他、インドで6月から7月にかけての降水量が例年より少なかったことなどの発表を受けて、同17.94セントまで反転した。10日も米国労働省が発表した7月の米消費者物価指数が市場の予想を下回ったことをきっかけに米ドルが売られ、商品市場への資金流入による相場全体の底上げを受けたことから同18.28セントと上昇し、18セント台まで回復した。その後は、原油価格の急騰などにより、12日は同18.60セントまで続伸したものの、15日

は、原油価格が下落した影響などから、同18.54セントと値を下げ、17日は、リアル安などから、同18.24セントと続落した。18日は、中国税関総署が公表した7月の砂糖輸入量が前年同月比で35%減少したことなどが重荷となり、同17.77セントまで下落し、18セント台を割り込んだ。19日は、ブラジル国家食糧供給公社 (CONAB) が、作付面積の減少から22/23年度の同国の砂糖生産量の予測を4月時点から下方修正したことなどから、同18.09セントと反発した。その後、原油価格などの影響で小幅な値動きを繰り返し、25日は、同17.90セントと値を下げた。26日は、ブラジルにおいて砂糖生産量の減少が予測される中、リアル高により、同18.47セントまで高騰したが、30日は、原油価格の下落とリアル安により同18.10セントと値下がりし、31日は、同17.89セントと続落した。

9月1日は、原油価格の上昇とリアル安の影響に

より、同17.99セントと値を上げた。6日は、原油価格の下落を受け、同17.98セントと値下がりした。9日は、タイ政府がバイオ燃料に2年間国庫補助金を支給すると発表したことにより、同18.22セントと上昇した。この助成金制度により、タイの製糖会社がエタノールを増産し、砂糖の減産が想定され、同国の砂糖輸出量が減少する可能性がある。12日は、さらに値を上げ、同18.35セントとなった。

(注1) 粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対してレアルが上昇すると、相対的にブラジル産粗糖の価格競争力が低下する。世界最大の砂糖輸出

国ブラジルの輸出意欲が低下すると、需給のひっ迫につながることから、価格を押し上げる方向に作用する。

(注2) 1ポンドは約453.6グラム、1米セントは1米ドルの100分の1。

(注3) 一般に、原油価格が下落すると、石油の代替燃料であるバイオエタノールの需要も減少する。バイオエタノールの需要減少により、その原料作物(サトウキビ、てん菜など)のバイオエタノール生産への仕向けが減る一方、それらから生産される食品(サトウキビの場合は砂糖)の生産・供給が増えると想定される。食品用途仕向けの度合いが大きくなるほど需給が緩和し、当該食品の価格を押し下げる方向に作用する。

## 4. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向 (2022年9月時点予測)

### ブラジル

#### 2022/23年度 (4月～翌3月) の見通し

##### 【サトウキビ】

収穫面積：848万ha (前年度比2.3%減)  
生産量：6億トン (同4.0%増)

##### 【砂糖 (甘しゃ糖)】

生産量：3879万トン (同3.1%増)  
輸出量：2812万トン (同3.8%増)

### 2022/23年度の砂糖生産量と輸出量は、やや増加する見込み

2022/23年度 (4月～翌3月) のサトウキビ収穫面積は、大規模な植え替えが計画されている中で、前年度の不作による苗不足から848万ヘクタール (前年度比2.3%減) とわずかに減少すると見込まれる (表2)。一方でサトウキビ生産量は、主産地である中南部地域が平年より乾燥したものの、その他の地域ではサトウキビの生育に適度な降雨などの良好な条件が続いたことから6億トン (同4.0%増) とやや増加すると見込まれる。砂糖生産量は、降雨などの影響で収穫作業に遅れが生じ、7月に続き、8月もブラジルサトウキビ産業協会 (UNICA) による減産見込みが発表されたものの、7月には相次ぐガソリンの卸売価格引き下げを受けて、相対的に

バイオエタノール需要が減少し、砂糖仕向けの増加が見込まれることから3879万トン (同3.1%増) とやや増加すると見込まれる。輸出量は砂糖の増産を背景に2812万トン (同3.8%増) とやや増加すると見込まれる。

### 8月前半の砂糖生産量が前年同期比12%減と発表

UNICAは8月24日、ブラジルの主産地である中南部地域の生産状況などを発表した。これによると、同地域の製糖工場における8月前半のサトウキビ処理量は3862万トン (前年同期比13.7%減)、砂糖生産量は263万トン (同12.1%減)、エタノール生産量は20億リットル (同10.2%減) となった。

UNICAによると、8月上旬の処理量の減少は、

同地域内でもサトウキビ生産量が盛んなサンパウロ州、パラナ州、マツト・グロッソ・ド・スル州で、悪天候により収穫作業に影響が及んだことによるものという。

2022年4月から8月16日までの累計では、サトウキビ処理量は3億2210万トン（同8.0%減）、

砂糖生産量は1862万トン（同12.8%減）、エタノール生産量は156億8000万リットル（同4.8%減）となった。

また、今期のサトウキビ1トン当たりの回収糖分（TRS）は135.75キログラム（同2.0%減）と、前年同期からわずかに減少した。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

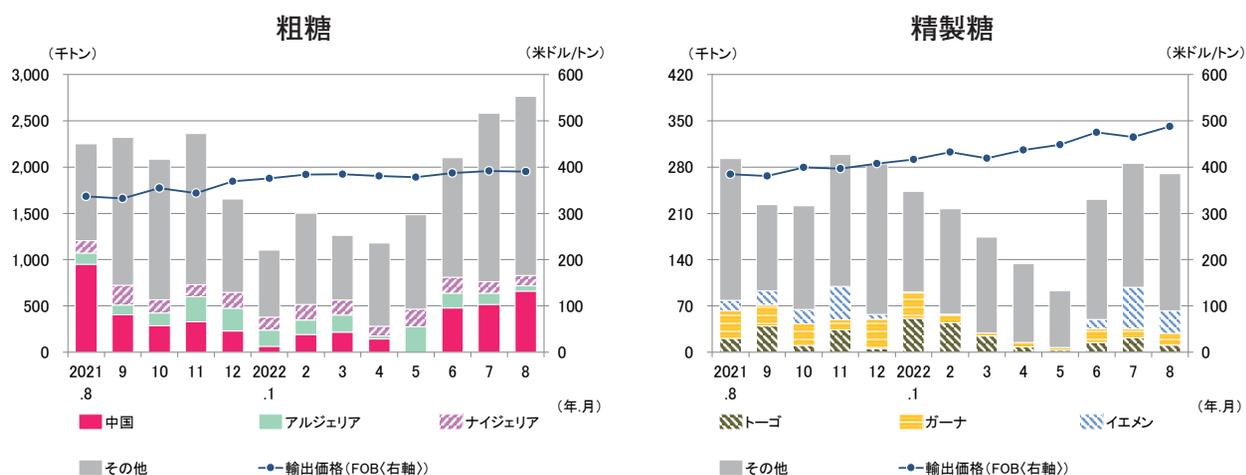
年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (8月予測)	2022/23 (9月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	8,599	8,651	8,683	8,483	8,483	▲ 2.3%	
サトウキビ生産量	642,677	657,432	576,707	595,000	600,000	4.0%	
砂糖	生産量	31,804	44,595	37,610	38,250	38,790	3.1%
	輸入量	6	8	9	8	8	▲ 10.6%
	消費量	10,842	10,996	10,666	10,666	10,666	0.0%
	輸出量	20,321	34,042	27,086	27,586	28,124	3.8%
	期末在庫量	3,778	3,343	3,210	3,218	3,219	0.3%
	期末在庫率	12.1	7.4	8.5	8.4	8.3	0.2ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, September 2022」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考）ブラジルの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。

## インド

### 2022/23年度（10月～翌9月）の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積：541万ha（前年度比4.6%増）  
生産量：4億5951万トン（同3.3%増）

#### 【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：3746万トン（同3.0%減）  
輸出量：800万トン（同34.6%減）

### 2022/23年度の砂糖生産量はやや、輸出量は大幅に減少する見込み

2022/23年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、前年が豊作だったことを受け、さらなる拡大が予測され、541万ヘクタール（前年度比4.6%増）とやや増加すると見込まれる（表3）。最大生産地ウツタル・ブラデーシュ州での雨量が平年を大きく下回っているものの、主産地のマハラシュトラ州やカルナータカ州で、雨季の降水量が平年を大きく上回っており、サトウキビ生産量は4億5951万トン（同3.3%増）とやや増加すると見込まれる。砂糖生産量は、3746万トン（同3.0%減）とやや減少すると見込まれ、TRSの減少による減産が見込まれる。輸出はここ数カ月で減速しており、2022/23年度の輸出政策が確定されていないものの、初期に輸出許可される枠は400万～600万トンと予測されることから、輸出量は800万トン（同34.6%減）と大幅に減少すると見込まれる。

### 2022/23年度の砂糖輸出枠は2回に分けて許可する可能性

9月1日付けの現地報道によると、2022/23年

度に向けて砂糖輸出枠を2回に分けて許可する予定だと、政府や業界関係者が語った。同国政府は、当期の段階で400万～500万トンの輸出枠を許可し、残りの輸出枠は後日、許可する可能性が高いとされ、10月から始まる翌年度の砂糖輸出量は700万～800万トンに達すると見込まれている。

同国では、近年の物価水準の高騰を抑制するため、21/22年度の砂糖輸出量を1120万トンに制限<sup>(注)</sup>しており、国際相場は高騰したものの、国内価格の安定化を図っていた。

サトウキビの豊作が見込まれる今年度2回目の輸出枠の規模は、砂糖生産量と国内価格によって変動するとみられる。砂糖の国内価格を維持するためには余剰在庫の輸出が必要だが、過度の輸出は国内価格を上昇させる可能性がある。このため、政府は生産者と消費者双方の利益の微妙なバランスを維持しなければならないと、難しい対応を迫られる。

(注) 当初の1000万トンの制限を1120万トンまで上限を拡大した。詳細は、2022年8月19日付け海外情報「砂糖輸出制限を緩和し、120万トンの追加輸出を許可（インド）」([https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01\\_003336.html](https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003336.html))を参照されたい。

表3 インドの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

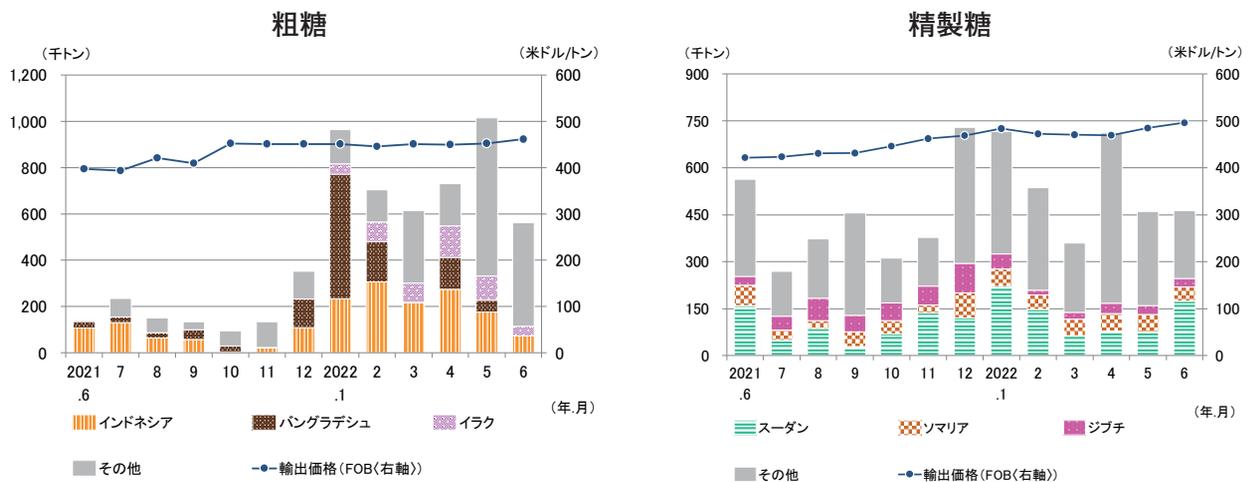
年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (9月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	4,642	4,906	5,167	5,405	4.6%	
サトウキビ生産量	369,805	421,687	444,813	459,505	3.3%	
砂糖	生産量	29,544	33,642	38,602	37,459	▲3.0%
	輸入量	1,686	1,022	394	216	▲45.2%
	消費量	27,324	28,679	29,376	29,916	1.8%
	輸出量	8,288	8,582	12,223	7,998	▲34.6%
	期末在庫量	10,453	7,855	5,252	5,013	▲4.6%
	期末在庫率	29.4	21.1	12.6	13.2	0.6ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, September 2022」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量(累計)上位3カ国を表示。

## 中国

### 2022/23年度(10月～翌9月)の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積：112万ha(前年度同)

生産量：7176万トン(前年度比0.5%減)

#### 【てん菜】

収穫面積：13万ha(同10.0%減)

生産量：674万トン(同4.7%減)

#### 【砂糖(甘しゃ糖およびてん菜糖)】

生産量：1053万トン(同1.9%増)

輸入量：619万トン(同7.9%減)

### 2022/23年度の砂糖生産量はわずかに増加し、輸入量はかなりの程度減少する見込み

2022/23年度(10月～翌9月)のサトウキビの収穫面積は、112万ヘクタール(前年度同)と前年度並みと見込まれる(表4)。サトウキビ生産量は、

主産地の広西チワン族自治区の一部を除き熱波の影響を受けていないため、7176万トン(前年度比0.5%減)とわずかな減少にとどまると予想される。一方で、同年度のてん菜の収穫面積は、トウモロコシ価格の高騰を背景に政府が3月に穀物の増産を呼

びかけたことから、トウモロコシへの転作が増加し、13万ヘクタール（同10.0%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。てん菜生産量は、てん菜の生育は順調であるものの、収穫面積の減少により674万トン（同4.7%減）とやや減少する見通しである。

砂糖生産量は、サトウキビ主産地の広西チワン族自治区や雲南省の降水量が平年よりかなり多く、順

調に生育していることから、1053万トン（同1.9%増）とわずかに増加すると見込まれる。輸入量は、2020年に引き続き21年も国内生産の不足分を上回る量が輸入され、国内在庫が積み増しされたことから、619万トン（同7.9%減）とかなりの程度減少すると予想される。

表4 中国の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

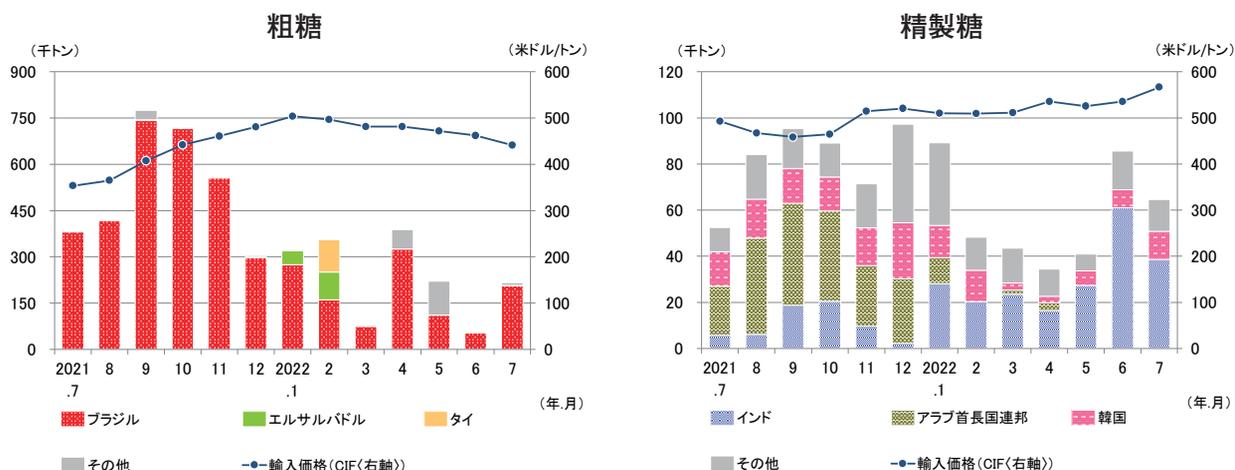
年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (9月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,176	1,157	1,115	1,115	0.0%	
サトウキビ生産量	73,715	72,441	72,136	71,762	▲ 0.5%	
てん菜収穫面積	213	231	144	130	▲ 10.0%	
てん菜生産量	10,900	12,330	7,070	6,736	▲ 4.7%	
砂糖	生産量	11,258	11,530	10,334	10,527	1.9%
	輸入量	6,582	7,978	6,716	6,186	▲ 7.9%
	消費量	16,308	16,740	16,524	16,740	1.3%
	輸出量	192	132	167	170	2.1%
	期末在庫量	12,582	15,218	15,577	15,379	▲ 1.3%
	期末在庫率	76.3	90.2	93.3	90.9	2.4ポイント減

資料：LMC International [Monthly Sugar Information in Major Countries, September 2022]

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入価格の推移



資料：[Global Trade Atlas]

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸入量（累計）上位3カ国を表示。

# E U

## 2022/23年度（10月～翌9月）の見通し

### 【てん菜】

収穫面積：139万ha（前年度比4.1%減）  
生産量：1億138万トン（同8.3%減）

### 【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1607万トン（同6.8%減）  
輸出量：99万トン（同22.4%減）

## 2022/23年度の輸出量は、大幅に減少する見込み

2022/23年度（10月～翌9月）のてん菜の収穫面積は、一部のてん菜圃場で価格の高騰しているトウモロコシなどの穀物が作付けされたことから、139万ヘクタール（前年度比4.1%減）とやや減少すると見込まれる（表5）。てん菜生産量は、7月から8月にかけて記録的な熱波や干ばつの影響を受

けたほか、肥料価格の高騰と散布量の減少から収量が平年を下回る可能性があるため、1億138万トン（同8.3%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。砂糖生産量は、てん菜の減産見込みを受けて1607万トン（同6.8%減）とかなりの程度減少すると予想される。輸出量は、域内消費量の増加も見込まれる中で、砂糖の減産などを背景に99万トン（同22.4%減）と大幅に減少すると予想される。

表5 EUの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (9月予測)	前年度比 (増減率)	
てん菜収穫面積	1,517	1,474	1,453	1,394	▲ 4.1%	
てん菜生産量	110,102	98,517	110,606	101,375	▲ 8.3%	
砂糖	生産量	16,971	15,110	17,235	16,070	▲ 6.8%
	輸入量	2,230	1,888	2,001	2,413	20.6%
	消費量	17,016	16,752	17,641	17,739	0.6%
	輸出量	1,436	1,262	1,276	990	▲ 22.4%
	期末在庫量	2,347	1,332	1,651	1,405	▲ 14.9%
	期末在庫率	12.7	7.4	8.7	7.5	1.2ポイント減

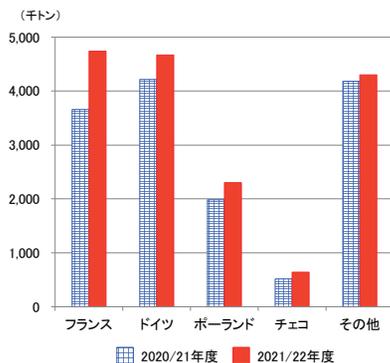
資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, September 2022」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

## （参考）EUの砂糖生産見通しおよび国別の生産割合（2022年4月時点）

### EUの砂糖生産見通し

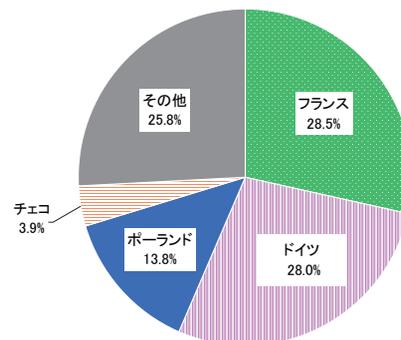


資料：欧州委員会

注1：精製糖換算。

注2：2021/22年度は予測値。

### 国別の生産割合（2021/22年度）



資料：欧州委員会

## 5. 日本の主要輸入先国の動向（2022年9月時点予測）

近年、日本の粗糖（甘しゅ糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しゅ糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先は、豪州およびタイであり、2021年の主要輸入先ごとの割合を見ると、豪州が86.6%（前年比0.03ポイント増）、タイが13.4%（同2.9ポイント増）と、これら2カ国でほとんどを占めている（財務省「貿易統計」）。

### 豪州

#### 2022/23年度（4月～翌3月）の見通し

##### 【サトウキビ】

収穫面積：34万ha（前年度同）  
生産量：3250万トン（前年度比7.9%増）

##### 【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：428万トン（同3.9%増）  
輸出量：327万トン（同11.7%減）

### 2022/23年度の砂糖輸出量は、かなり大きく減少する見込み

2022/23年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は、34万ヘクタール（前年度同）と前年度並みと見込まれる（表6）。サトウキビ生産量は、3月と7月に主産地のクイーンズランド州で洪水をもたらした降雨が収量に良い影響を与え、前年より良好な生育が予想されることから、3250万トン（前年度比7.9%増）とかなりの程度増加すると予想される。

砂糖生産量は、悪天候の影響で収穫作業が進まず、多くの製糖工場で処理作業が前年同期と比較して遅れているものの、サトウキビの増産を受けて、428万トン（同3.9%増）とやや増加が見込まれる。なお、輸出量は、327万トン（同11.7%減）とかなり大きく減少すると予想される。

### 3年連続でラニーニャ現象の予測

豪州気象局は8月16日に、ラニーニャ現象<sup>（注）</sup>が約7割の確率で発生すると予測し、予測レベルを注意から警戒に引き上げた。同国では2年連続でラニーニャ現象が発生しており、3カ月予報では、豪

州本土の東側の大部分で9月から11月の雨量が平年を上回ると予測している。

この報道を受けて、ニューサウスウェールズ州北部の一部のサトウキビ農家では、作付けを急いでいる。同州のサトウキビ生産者によると、水没による収穫機械などの損失が重なり、多くのサトウキビ生産者が財政的に厳しい状況に置かれているという。

2020年以降、オーストラリア東部では全般的に平年より湿った状態が続いている。また、河川の水量はかなり多い状態にあり、降雨量の増加見通しは、豪州東部の大部分に洪水のリスクをもたらすものであり、現地ではラニーニャ現象の発生が懸念されている。

（注）太平洋赤道域の日付変更線付近から南米沿岸にかけて海面水温が平年より低くなり、その状態が1年程度続く現象のこと。逆に、同じ海域で海面水温が平年より高い状態が続く現象はエルニーニョ現象と呼ばれる。ラニーニャ現象発生時は、オーストラリア東海岸は雨が多く降り、気温が低くなる傾向がある。

表6 豪州の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (8月予測)	2022/23 (9月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	364	354	342	342	342	▲0.0%	
サトウキビ生産量	30,046	31,074	30,114	31,733	32,503	7.9%	
砂糖	生産量	4,293	4,385	4,123	4,180	4,282	3.9%
	輸入量	17	10	15	17	17	13.3%
	消費量	1,085	1,041	1,039	1,032	1,032	▲0.6%
	輸出量	3,449	3,357	3,697	3,165	3,265	▲11.7%
	期末在庫量	747	744	146	174	149	1.4%
	期末在庫率	16.5	16.9	3.1	4.1	3.5	0.4ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, September 2022」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

## タイ

### 2022/23年度（10月～翌9月）の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積：168万ha（前年度比12.8%増）

生産量：1億1000万トン（同19.5%増）

#### 【砂糖（甘しや糖）】

生産量：1277万トン（同19.3%増）

輸出量：911万トン（同19.8%増）

### 2022/23年度の砂糖生産量と輸出量は、大幅に増加する見込み

2022/23年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、前年が豊作であったことや、競合するキャッサバに比べて収益が高い状況にあるといった理由から、168万ヘクタール（前年度比12.8%増）とかなり大きく増加すると見込まれる（表7）。サトウキビ生産量は、北部の一部で洪水が発生しているものの、作柄に影響を及ぼすまでには至っておらず、他の地域でも全体的に雨量が多く、順調に生育していることから1億1000万トン（同19.5%増）と大幅に増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、グリーンハーベスト<sup>(注)</sup>の普及を背景とした梢頭部<sup>しょうとう</sup>や葉などの混入が歩留まりを低下させるものの、1277万トン（同19.3%増）と大幅な増加が見込まれる。輸出量は、砂糖の大幅な増産を受けて911万トン（同19.8%増）と倍増した前年からさらに大幅な増加が見込まれる。

(注) サトウキビを燃やさず、そのまま収穫する方法。従来、同国ではサトウキビを燃やした後に収穫するのが一般的であったが、大気汚染を引き起こすとの批判が国内で高まったため、近年はグリーンハーベストが推進されている。

表7 タイの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

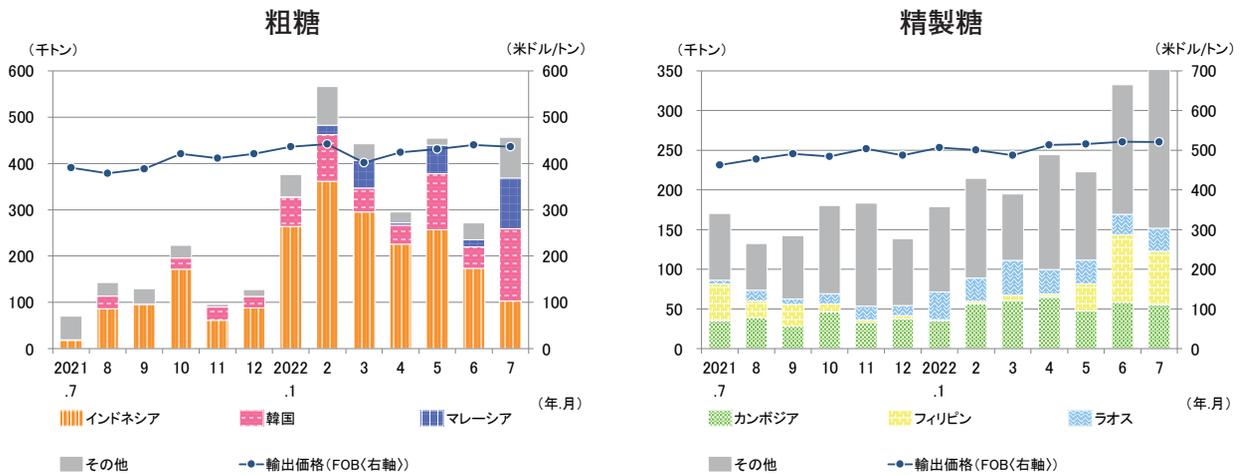
年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (9月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,714	1,485	1,489	1,679	12.8%	
サトウキビ生産量	74,893	66,659	92,071	110,000	19.5%	
砂糖	生産量	8,801	7,971	10,703	12,774	19.3%
	輸入量	66	113	160	10	▲93.8%
	消費量	3,773	3,592	3,644	3,644	0.0%
	輸出量	8,461	3,950	7,598	9,106	19.8%
	期末在庫量	4,532	5,074	4,696	4,730	0.7%
	期末在庫率	37.0	67.3	41.8	37.1	4.7ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, September 2022」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量(累計)上位3カ国を表示。